


向陽高校 吹奏楽部対談

学部や志望校を決めた時期と、決め手は？

小野： 高校入学時には決めていたと思います。きっかけは、中2の時に祖父が入院したことで。その頃はコロナ禍で面会もあまり行けなかったんですけど、看護師さんが優しく声をかけてくれた話なんかを聞いて"なんかいいな"って思ったことです。

岡野： 私はいろいろ迷ってたんですけど、最終的に決めたのは高2の後半だったと思います。高校の科目の中で化学が一番好きで。初めは薬学以外にも応用化学科とかもいいなって思ってたんですけど、じっくり研究がしたいわけではなくて、人と関わったり助けたりしたいなと思ったので。化学の勉強もできて、医療系で人と関われる薬学がいいかと考えて。それで、和歌山県に新設された薬学部があることを知って行きたいなって思いました。

富永： 私は決まったのは高2の4月くらいです。それまでは特に志望校とか学部とか決められていなかったんですけど、とりあえず自分の行きたいところを決めた方がモチベーションが上がるかなと考えて。まずは大学を決めて、そこにある学部を調べて。その時にちょうど見ていた韓国のドラマの中でマーケティング関係の職業があって。それが楽しそうだったので商学部か経営学部かなって、だんだん決まってきた感じです。

やらないって感じでごんばれたと思います。部活をやる時はやって、定期テストの時は勉強して。

小野： 高1の時から"推薦で"って思っていたので、定期テストはとらないってのはありました。でも部活もあるから平日はあまり勉強できなくて。かといって土日もある。だからテストの2週間前から毎日自習室に来てやりました。家では勉強できないタイプなので、塾で。

富永： 私も高1の最後くらいから部活ある日も友だちと少しだけ自習室に来てたかな。

岡野： 私も高1の時から"できたら推薦で"って思ってたので、テスト2週間前から勉強。でも部活も忙しいので、授業内で覚えられるところは覚えるようにしっかり授業を聞くようにしていました。

2人： すばらしい！

高3の8月末、部活引退までの受験勉強は？

小野： 高3になってからは部活終わりに塾に来ていました。

富永： うん、来てたよな。

小野： ポイント[*LINE来校ポイント…貯めるとお菓子が当たる]を貯めたくて(笑)あれは、めっちゃいい影響を与えられた(笑)

岡野： 夏休みとか吹奏楽部は9時から16時まで部活やってたけど、部活を6月に引退したみんなはその時間に勉強してるって思ったら、

高1高2の間に、部活と勉強の両立で工夫していたことは？

富永： 定期テストは高校生になってから、結構がんばりました。塾で『チャレ勉』もあるし。自習室に行ったらみんな勉強しているから、自分も

進学先

**和歌山県立医科大学
保健看護学部**
小野 紗佳さん
向陽高校 吹奏楽部


進学先

**和歌山県立医科大学
薬学部**
岡野 華奈さん
向陽高校 吹奏楽部


進学先

**大阪公立大学
商学部**
富永 遥菜さん
向陽高校 吹奏楽部


インタビュアー

渋谷勇太
(ACターミナル校カウンセリングスタッフ)

ちょっとそわそわしたよな。

2人：うんうん。でもみんな練習に一生懸命でなかなか帰ろうとしないし。

小野：部活の昼休憩の時に勉強してたよな。ターゲットとか。

2人：そうそう。40分休憩に。

しんどかったことは？それをどう乗り切った？

富永：一番しんどかったのは、みんなの推薦の結果が出た時。学校に勉強しに行っても、報告に来ている子がいて。合格はいいことだし、その子がどうかでは無いんですけど、もう人がどんどん減っていく感じがしんどくて。一緒に勉強してくれる子を探して、まだいるって安心しながら頑張った感じです。

岡野：私は12月の共通テストプレがしんどかった。判定が悪くて。絶対に共テで点を取らないといけないのに、直前のプレの判定が悪くて一番つらかった。クリスマスもお正月も本当は遊びたい気持ちがあったけど、もう勉強しよう決めて。それで後悔のないように最後まであきらめずに頑張ったと思います。

小野：私は私立の公募推薦と本命の推薦が近くて。11月の日曜日が私立で、その次の土曜日が本命。両方小論文だったんですけど、周りが共テの勉強をしている中で、自習室で一人で小論文書いているのがめっちゃ嫌でした。共テの勉強もしないといけないのに、小論文も書かないといけない。どっちも面接あって。数学の勉強やりたいのに。

岡野：私は推薦の面接とかは共テの後だった。共テがけっこう取れたから推薦で行くぞって思って面接練習に時間を使えたかな。でもその分、二次の勉強は疎かにしていたから、推薦だめだったらやばかった。

Academy Campusに通い始めたきっかけと、印象的だったことを。

小野：私は高1の4月からアカデミーに来はじめました。『チャレ勉』は絶対に来てました。推薦のために定期テストは取らないといけないので。家ではなかなか勉強できないからあれはよかった。

富永：私は中学生の頃は塾に行っていなくて。高校生になって、友だちからアカデミーの春期の体験があるって聞いて。受けてみたら、知っている子もいっぱいだし、クラスライブが良くて。それでアカデミーに決めました。すごく良かったのは、高3の夏休みに吹奏楽部のためにやってくれた『自習室DX』。部活がオフの日に4日間しんどかったけど、あれは本当によかった。夏休みに勉強時間を確保できたし、終わってからも"あれだけやったんだから、まだまだできる"っていう気持ちになったし。

小野：しんどかったけど本当によかったよな。

岡野：私は吉田先生の授業が一番印象に残った。高3でアカデミーに入ったきっかけが、吉田先生の英語の授業を受けたからなので。吹奏楽部の友だちからも「いい先生がいるよ」って聞いて、実際に体験授業を受けてみたら、すごく良くて。それまでは、英語の共通テストは文章も多いリスニングも聞いても分

からないし無理って思ってたんですけど。吉田先生の授業で勉強のやり方とかも分かって、その方法で最後までやりきれたので。すごく分かりやすかった。

富永：あと、サテラインの倫政は早めにやっていた方がいよって渋谷先生に言われて高2から受けたけど、あれは早めに受けておいて本当によかった。高3になってから別の教科に時間を使えし。

岡野：私はサテラインは共テ対策の社会を特訓(AC特別講座)の時に受けたけど、1日で集中してできるのはすごくよかったと思う。普段は理科とか数学が忙しいからぐっと集中してできるのはよかったかな。

大学に入ってからどんなことをしたいと思ってる？

富永：旅行に行きたいです。韓国も行きたいし、修学旅行で行けなかった台湾も気になるし。吹奏楽はちょっと悩めるけど、楽器を持っていないので。2人は続ける？

2人：いや、大学に無くて。外部の吹奏楽も楽器がいるしね。

富永：入学してからサークルとかいろいろ考えようかな。

小野：私はバイト。お金を貯めたい。別に何に使うか決めてないけど。でも大学卒業したら一人暮らしもしたいし。もう2つ始めています。ひとつは、整骨院で声をかけてもらってそこで。看護にも活かせるかなと思って。あとはサークルとかも何かはしたいかな。

岡野：私はUSJに行きたい。年パスを買って何回も。だからバイトをがんばらないと。

頑張る後輩へ、メッセージをお願いします。

小野：私は朝派なので、朝に1時間くらい勉強していました。朝起きられる人は、そういう生活パターンもいいんじゃないかなって思います。部活から帰ったら疲れて勉強ができないし。高3になってからは毎朝やってたかな。高2の最後の共テ模試のリスニングの結果が衝撃的で。リスニングは夜にして、得意な理科基礎を朝。それを1年間続けました。得意でも疎かにしたら苦手になると思うので。

2人：カッコいいこと言ってる！(笑)

岡野：私は、模試の結果を受け取った時の心の持ち方が大事かなと思います。やっぱりD判定とかE判定だとあきらめたくなくなると思うんですけど。でも、実際に私も落ち込んだ時があったけど、最後まであきらめずにがんばったら合格できたので。だから模試の結果で落ち込むんじゃないって、それをバネにしてがんばってほしいなって思います。

富永：模試は自分ができてないところが出るからその部分は復習してたかな。判定は"まだ時間あるからがんばろう"くらいの受け取り方で。

小野：私は、模試は同じものを3回やるようにしてた。1回受けた後に、次の週くらいまでにはもう1回やって。その後、冬休みくらいまでには、今までの分を全部もう1回解きました。

富永：私は、一緒に勉強できる友だちが本当に大事だなって思いました。一緒に頑張ろうって言うってくれる子がいたからがんばれた。やる気もでたし、モチベーションになったと思うから。そういう子を見つけれたらいいなって思います。

編集後記 ~インタビューを終えて~



岡野さんは吉田先生の共通テスト攻略英語体験会(2023.6実施)をきっかけに入会してくれましたが、入会后、ACのイベントにも積極的に参加してくれて、特訓などを上手く活用していました。吉田先生の教えを守り、入会后右肩上がり成績を伸ばしていきました。

小野さんは、対談で話してくれた通り、高1の入会当初すでに志望校が決まっていたので、推薦を考え毎回の定期テストを頑張ってきました。3年間気持ちを切らさず継続し、高い評定をとり続けました。共通テストの勉強のみならず、面接や小論文の対策も必要で大変だったと思いますが、弱音を口にすることなく、初志貫徹で高1から目標としていた合格を見事に勝ち取りました。

富永さんは1年生の頃は進路についてなかなか決まらず悩んだ時期がありましたが、2年生で経営・商学に決まっていたからモチベーションも上がり、受験に向けて高い意識を持ってよく頑張っていました。「一緒に勉強できる友人を作った方が良い」と話してくれた、AC生らしい生徒でした。

3人とも向陽高校吹奏楽部というハードな部活で、引退も遅く、夏休みもほぼ無い状態でした。それでも、そのような状況になることを事前に理解し、2年生の時点では自分がどういった受験をするのか完全に決めることが出来ていました。自分たちの状況を俯瞰し、先読みし、逆算して継続して勉強を積み重ねてきたことが、見事に実を結びました。

大学でも新しく熱中できることを見つけ、多いに楽しんでもらいたいと思います。

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 渋谷勇太